

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	グループホーム プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33-108		
自己評価作成日	平成26年6月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成26年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした暮らしを育む場として、日々の生活の中でその人らしくその人に合った個別ケアをしています。入居者の方々が輝き続け、生きる意欲がしぼまないやさしい家です。四季を感じていつでも日光浴や散歩ができるようにと日当たりのよい中庭があります。大切な時間をたくさんの方々と触れ合いながら過ごして頂けるようにと様々な企画をしてお一人おひとりの思いを大事にしたいと心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が地元で生まれ育った方で地域との太い繋がりもあり、町内会・消防団の協力等又、近所の小学校や学童保育との交流も日常的に行われ子供たちと利用者は顔見知になっています。普通の暮らしを続けていく事が出来る様その人の持っている力や思い、考えを引き出し人と人との関わりを大切にしながら、介護技術や医療に関する知識の研鑽に励んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や職員同士でホームの理念の確認を行い、地域密着型のサービスが提供できるように話し合い、目標を決め取り組んでいます	理念の理解度の確認を年2回行っています。又、職員の1日の行動の振り返りを数か月間就業後に行い、自己分析を行うなど理念の共有と実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の行事へ参加させていただいたり、学童やボランティアの方々がホームで歌やゲームやモノづくりなどを一緒に行っています	地域に密着した運営を心がけており日常的に学童保育の子供たちや近所の方との交流があり、地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で介護相談などの呼びかけを行ったり、いつでも見学できるようにしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難・防災・災害時に役立つものを話し合ったり、ホームでの近況報告などを行いながら、地域包括支援センターや地域の民生委員の方々と意見交換を行いサービス向上に取り組んでいます	防災に関する意見や情報など、又、地域での身近な出来事やホーム内の入居者の様子等話し合いサービスの向上に取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話等でケアサービスの取り組みについて伝えながら、アドバイスをいただくなど協力関係を築くよう取り組んでいます	施設内研修を行う時に、市の担当者に相談してアドバイスをもらうなど協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をせず、定期的に勉強会や職員同士で確認をしながら全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいます	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。全職員が利用者の安全を確保して守る方法は、安易に道具に頼ることなく職員同士の連携と目配り気配りでほとんどの事がカバーできることを理解しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議や勉強会で話し合い、意識を高めています。また、言葉がけにも気をつけながら虐待防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で成年後見制度等について理解できるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛け、理解・納得をしていただけるよう努めています。また、同意書が必要な場合はその都度説明し、同意を得ています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との話し合いの場を設けたり、玄関に意見箱も設置しております。面会時には積極的にコミュニケーションをとり医師や訪問看護師と相談しながら要望などを反映できるようにしています	入居者の様子を伝え、家族の意見や思いが話やすい雰囲気づくりを心がけています。高齢の利用者が骨折をして本人と家族の希望でトイレに自分で行けるようにリハビリを続け現在見守りでトイレに行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談の際に意見を聞き、反映できるようにしています	ホーム長が毎月職員一人ひとりと面接を行っています。職員から担当外のユニットの入居者の事をもっとよく知りたいと意見が上がり、期限を決めて勤務を入れ替えたり現状を把握しながら意見の反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や現場に出て現況把握に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への参加を促し、介護技術の向上につなげています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の事例検討や研修会へ参加したり、知り合った方々と連絡を取り情報交換をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時や入居時に好きなことや日課などを聞き、共通することを実践していただきながら、安心していただけるよう支援しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時や面談時に家族が不安に思われていることや要望等に傾聴し、支援できるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族に要望に合ったサービスを提供できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は教わりながら一緒に取り組むことで支え合える関係が築けるよう支援しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望やホーム側からの提案などを話し合う機会をつくり、協力しあえるよう努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ手紙を書いたり、昔なじみの美容院へ行ったり、家族に話を聞きながら馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています	定期的には手紙を書き、本人と職員と一緒に投函しに行ったり、馴染みの美容室に行くなど個々に合わせた継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やレクリエーションには職員も間に入りさみしくないよう声掛けをし、楽しくコミュニケーションがとれるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が電話や手紙などで現況を尋ねたり、機会を設け訪問に行くなどしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で一人ひとりの発する言葉や表情や家族からの情報などから意向の把握に努め職員同士で情報交換をしています	入居者の願望や意向の把握に努め得意な事などを継続しながら一人ひとりの暮らし方に添った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までのライフスタイルや生活歴などをご本人や家族や知人の方からお話を聞き把握できるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや表情や行動など日々の変化に気を配り現状把握できるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意向をうかがい、また全職員による評価と課題をまとめて話し合い現状に合った介護計画を作成しています	変化があればその都度介護計画を立てて家族に必ず説明しています。また医療的な課題がある時は医師、看護師と共に介護計画を作成し実践に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、一日の出来事や話した内容や要望をその都度記入し、職員同士の情報の共有やケアの早期見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や他のサービス事業所に相談し、状況に応じて必要なサービスが受けられるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容やボランティアの方々に演奏会や小物づくり教室を開催していただいたり、メガネクリーニング等を取り入れて日々の生活を楽しむことができるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院に往診・受診できるように家族の協力も得ながら支援しています。ホームと家族とか医師が連携して適切な医療がうけられるよう支援しています	深夜の往診や毎日受診が必要になった方の家族の協力など本人、家族、事業所、医師との連携を大切に医療支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で電話相談を受けて下さっています。また、必要なときには、訪問看護師や医師に伝え助言をいただいで支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を活用したり、また入院先や医療機関に訪問・連絡して情報交換に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム内で出来る事を明確にし説明しながら方針を共有し、家族と医師とホームで随時話し合い、意思確認をし支援に取り組んでいます	本人家族に希望を聞き看取りを実践しています。終末期に関する身体の状態変化の勉強会を協力医主導で定期的に行っています。入居者の状態が悪くなった時の連絡手順がマニュアル化されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、事例検討や研修会を開いて対応できるようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中・夜間の避難訓練を行い、全職員が対応できるように努めています。運営推進会議では民生委員・町内会長をはじめ皆様より天災害に備えた防災についてアドバイスをいただき対策に努めています	近所に消防署の出張所ができて避難訓練を見に来てもらった。運営推進会議で事業所の備蓄が2、3日あることを伝えて安心してもらえました。災害避難訓練を夜間設定にして2回に1回行っています。	これからも町内会、消防団の協力も得ながら、地域の方々のより多くの参加に取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応に努めています。また、対応や声掛けについて定期的に話し合っています。	職員に声掛けの勉強会を行い、言葉が命令口調やきつくならない様に練習を行うなどプライバシーを損ねない言葉かけに取り組んでいます。	以前続けていた自己チェック表を見直し項目を入れ替えるなどしながら継続して声掛けや接遇の向上に取り組まれる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛けを行い、ご本人が表情や動作など選択できる場面づくりをしています。また、問いかけに対して待つように心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを確認しながら、一人ひとりのペースに合わせた一日を送れるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服はご本人に選んでいただいたり、鏡の前で整容していただいたり、外出する際には職員と一緒に身だしなみを整えるようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、季節の食材を取り入れたり食べたいものを聞きながら献立を決め一緒に食事をとっています。準備や片付けは利用者の体調をみて声掛けをし職員と一緒にしています	毎食のカロリー計算はその日の食事担当の職員が行い、定期的に栄養士の指導を受けて献立の確認を行っています。入居者全員に希望を聞いて主食はご飯とパンのどちらかを選択してもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や病状に合わせた食事形態でカロリー計算しながら食事提供・介助をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアの声掛けを行い、介助の必要な方はできない部分を介助しています。うがいができない方はガーゼ等でケアをしています。また、歯科とも連携をとり口腔内の清潔保持に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自ら訴えることが難しい方は、行動や様子やしぐさなどをよく観察し判断してトイレ誘導をしています。トイレ誘導表を使用しながら、随時声掛けも行ってきます。一人ひとりの排泄の自立支援に努めています	トイレでの排泄が困難な入居者には声掛けや対応を工夫しながら無理なくトイレで排泄出来るよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳酸菌飲料を活用したり、十分な水分補給と運動も取り入れ工夫しています。また、ホットタオルで身体を温めたりやマッサージなど行いを便秘予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるよう、入浴前にはご本人に説明し一人ひとりの希望に合わせた入浴支援ができるよう、また無理に行わないよう心掛けています。体調が悪い方には、清拭やドライシャンプーを行っています	新しい職員は入居者から入浴を拒否されることが多いが、根気強く毎日声掛けをして他の職員の協力もあり、2か月目に拒否することもなく気持ち良く入浴介助をすることができ無理しない入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休まれる時間が違い体温調節も難しい方もいるので、ご本人の様子をみて休んで頂くよう声掛けを行っています。また、夜間は照明や物音に気を付け安眠を妨げないように気を付けています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、内服できているか確認しています。医師や薬剤師に相談しながら、一人ひとりの薬の必要性を理解し、内服による症状の変化をしっかりと様子観察するよう努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることを把握し役割分担した仕事などをしたり、花の手入れや季節の野菜の収穫やレクリエーションで楽しく過ごしていただけるよう支援しています。入所前の趣味も継続できるように努めています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じていただけるように、家族に相談しご本人のその日の体調を加味しながら外出支援を行っています。買い物や外出などコミュニケーションの中から希望を聞いて家族と協力しながら支援に努めています	季節ごとにドライブに出かけています。外出するときに家族に声掛けをして少しずつ参加する家族が増えてきました。入居者と家族に喜んでもらえるような外出の企画を家族と情報交換をして行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金の管理所持をすることは難しいですが、家族と相談しながら外出の際に希望するものや飲食ができるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族と相談し、家族の要望とご本人の希望時や状況に合わせて手紙や電話などのやり取りができるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動線には妨げになるような物は置かないような空間づくりをしています。分かりやすい目印や標示をつけたり壁を利用して四季を感じられるような装飾や写真の掲示をしています。また、衣類やエアコンなどを利用して体温調節に努めています	入居者が居心地よく過ごせるよう季節感を取り入れた空間づくりに努めています。壁に入居者全員の写真を貼り家族に喜んでもらっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は他のテーブルに移動したり、居室で過ごしたり、居間のソファやカウンターなどを利用しゆったり過ごしたり、晴れた日にはデッキの椅子に座ったり穏やかに過ごせるように努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも相談しながら、自宅で使用していたなじみの物を持って来られたり、ご本人が過ごしやすい部屋づくりを一緒に行っています	今まで使っていたものを一つでもいいので持ってきてもらっています。家族と入居者の思いに配慮しながら、本人が居心地よく過ごせる様工夫しています。居室には入居者の作品が飾ってありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、必要な時は補助具を増やすなどして安全で自立した生活が送れるように心掛けています		